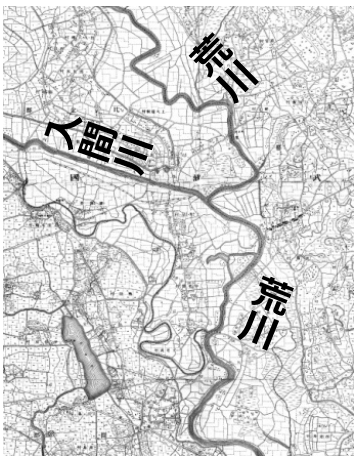
荒川流域のビオトープ ～地域の野生の生き物が暮らす場所～

国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所

荒川上流部改修から100年 1918-2018

体験を通して周辺の市民や子供たちが荒川の自然について学ぶ場としても活用されています。

学習の場として活用されている三ツ又沼ビオトープ



明治14年測量の地方迅速図

現在の三ツ又沼付近

豊かな自然を残しふれあいながら学べるよう整備　三ツ又沼ビオトープ

荒川の河口から48km地点付近の開平橋上流の河川敷にある三ツ又沼は、埼玉県上尾市、川越市、川島町の境に位置します。かつて、荒川の旧流路がうねった山の部分にちょうど入間川が合流しており、二つの河川は三ツ又の河道を描いていました。洪水を防ぐために、この二つの河川は瀬替えが行われましたが、流れの一部が残ったものが現在の三ツ又沼です。

三ツ又沼を中心とした地域では、水生植物や湿地性の植物が豊かに茂り、様々な野鳥やトンボ類が暮らし、メダカやスミレなどかつて身近に見られた動植物のほかにも、ミクリ、エキサイゼリ、ハナムグラなどの希少な植物も多く確認されています。

荒川上流河川事務所では、環境団体、地域住民、学識経験者、近隣自治体などと連携を図りながらパートナーシップによる保全管理を進めています。

▶ 豊かな自然を取り戻すために整備　荒川ビオトープ

整備前

整備後約3年半

北本市の荒川河口約57km地点の荒川中流部から、埼玉県北本市と川島町にまたがる河川敷に荒川ビオトープがあります。

荒川ビオトープの整備に際しての目標は、タカの仲間である「サシバ」を呼び戻すこと。「サシバ」は平野部の生態系ピラミッドの頂点に位置し、４月上旬に東南アジアなどからやってきて平野部から低山帯にかけて10月中旬まで見ることのできる夏鳥。50ha以上の自然確保されていなくては子育てができないことから、荒川ビオトープと隣の北本自然観察公園とあわせて50ha以上の自然を確保。さまざまな野生の生き物を呼び戻し、自然生態系の復活を目指しています。

荒川ビオトープは、全国に先がけ、野生の生きものたちを主役に川の整備を行ったところです。生きものたちの暮らしを守るため、人やバイクなどの立ち入りを禁止していますが、そのかわり、近くにある埼玉県自然学習センターからビデオモニターで、荒川ビオトープのなかの様子が自由に見られるようになっています。

▶ 川の流れの中につくられた全国初のビオトープ　越辺川ビオトープ

越辺川天神橋下流の左岸500m地域、面積約2haのビオトープ。ふだん川が流れている低水路をビオトープとして本格的に整備したのはこの越辺川ビオトープが全国初です。

越辺川中流域の川島町八幡地区はカワセミ、タヌキ、イタチなどが暮らす自然豊かな場所でしたが、1994年度に川を掘る工事を行うことになりました。その際、流域の市民や地元の環境NGOから、「工事前より自然が豊かになるようビオトープとして整備を行い、自然を回復させて欲しい」という要望が出されました。そこで工事を管轄する荒川上流河川事務所では、こうした声に積極的に対応しました。工事の際に掘ったところをふつうは平らにならすのを、凸凹にし、カワセミやコチドリ、オオヨシキリなどが子育てをできるようにしました。また曲がりくねった水路、池、湿地、中州、砂れき地などさまざまな環境をつくり出し、トンボやカエル、カメなどの水生動物が暮らせるようにしました。

天神橋から臨む「越辺川ビオトープ」。昔ながらの懐かしい河原の風景が残っています

アクセス

三ツ又沼ビオトープ
交通：ＪＲ高崎線「上尾駅」下車、東武バス「平方」行き、「川越駅」行き、「リハビリセンター」行き、「指扇駅」行き、「平方」下車、徒歩約25分、ＪＲ川越駅より、東武バス「上尾西口」行き、「平方」行き、「入間大橋」下車、徒歩約20分
住所：埼玉県上尾市平方

荒川ビオトープ
交通：ＪＲ高崎線「北本駅」下車、北里研究所行きバス約15分、「北本自然観察公園」下車、徒歩約5分
住所：埼玉県比企郡川島町山ヶ谷戸

越辺川ビオトープ
交通：JR高崎線「川越駅」下車、東武バス「東松山」行き、「八幡団地」下車、徒歩15分、東武鉄道東上本線「若葉駅」下車、東武バス「八幡団地」行き、「八幡団地」下車、徒歩15分
住所：埼玉県比企郡川島町八幡

三ツ又沼ビオトープ

荒川ビオトープ

越辺川ビオトープ